

すべての行動には原因となるところがある



指導 原本 妙子

ペンフィールドのホムンクルス（脳の中の小人）
カナダの脳神経外科ワイルド・グレイヴス・ペン
フィールドのデータを基に作られたホムンクル
スと言われる小人間像。脳とからだの部位が繋
がっていることを立証するために様々な分野で
幅広く使われている。

まえがき

小さい頃から手を見ることが好きでした。学生時代は、手相占いの本を読みながら自分の手をよく眺めていました。それでもまさか自分が、手を読むことを生業にするとは考えてもいませんでした。

一般的な手相占いを学び、これまで小さなお子さんから大人まで、多くの方の手相を見てきて、手相が変化することになった気がしてきました。もしかしたら、手相は運勢を見たり性格を言い当てたりする単なる「占い」ではないのではないか？ と考え始めました。

日本で行われている手相占いは西洋手相術が主流です。ならば、その真意は海外（西洋）の文献を読めばわかるのではないかと、海外の文献を取り寄せて読むことにしました。

そこで気がついたこと

- ・ 手のひらの線やしるしだけでなく、手全体や指の特徴からも多くの情報を知ることができる
- ・ 手・指・手のひら・手首からはそれぞれ違った情報を得ることができる
- ・ 生まれた時から持っている線と自分で作る線がある

- ・手や指、手相は意識で変化する
- ・手は人生の指針であり、自分らしく生きるためのヒントを教えてくれている

左右の手は脳と繋がっていて、生きるための指南役ではないかということに気がついたのです。こちらの写真をご覧ください。生まれたばかりの赤ちゃんの手の変化を時系列に撮影した写真です。

生まれた日



生後2週間



生後6ヶ月



生まれた時は、指がすらつと長く、手のひらにはたくさんの線（手相）が刻まれています。ところが、翌日から線が消えていき、生後2週間経った時には、縦の線がほとんどなくなっていました。生後6か月になると、指がふと短くなり、縦の線は跡形もなく消えてしまいました。

この手の変化は、いったい何を意味するのでしょうか？

何度かご相談にきて下さったお客様や身近な人の手を時系列に観察してみると、手相や指の状態が変化している事実に直面しました。特に年齢が低くなればなるほど、手の変化は顕著で短期間でも変わっていきます。

手相学には、占いという娯楽の域を超えた叡智があります。

多くの事例を検証して私が目にした手の変化は、こころの変化や成長の証であり、意識の変化ではないかと考えるようになりました。

つまり、左右の手は脳の働き（こころ）を目に見えるカタチで教えてくれているのです。

短期間で変化する子どもの手の様相は、日々変化する子どもたちの心模様の表れなのです。

子育て中のママ、パパの悩みの多くは、「なんでこんなことをするの？」、「どう育てたらいいの？」と

いうことではないでしょうか。

「なんでこんなことをするのだろう」

行動の「なぜ？」の答えは、ネットの情報や育児本などから得られるかもしれませんが、私はお子さんの左右の手がもつとも的確な答えを教えてくれると確信しています。

最近、不登園、不登校、学校での問題行動のご相談が多くなりました。

お子さんの手をみてみると、言葉にできないところの声聞こえてきます。子ども達は大人が見ている以上に、いろんなことを感じて、周りをよく観察しています。そして、なによりもママ、パパの期待に応えようと頑張っています。

子どもたちの行動には、必ず原因となるところがあります。

何も喋らなくても、からだを動かしていなくても、たくさんのことを感じて考えています。

本書では、私の臨床経験も交えて、目には見えない意識の状態、言葉や態度では知り得ない「子どものこころ」を左右の手から知る方法をご紹介します。

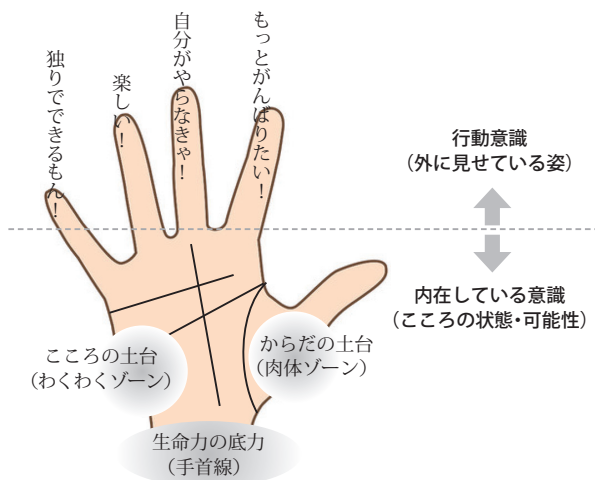
この本を手にしたママ、パパと、子どもに関わるすべての人がストレスなく育児ができること、そして何より子どもたちがストレスなく可能性を伸ばしていくために役立てていただければ嬉しく思います。

子どもたちの健やかな成長を願って

一般社団法人HASTA手相学研究所 代表理事

寺島みさお

手の構造 生きるための土台と4本の指



手のひらの線の名称と指の節の意味

